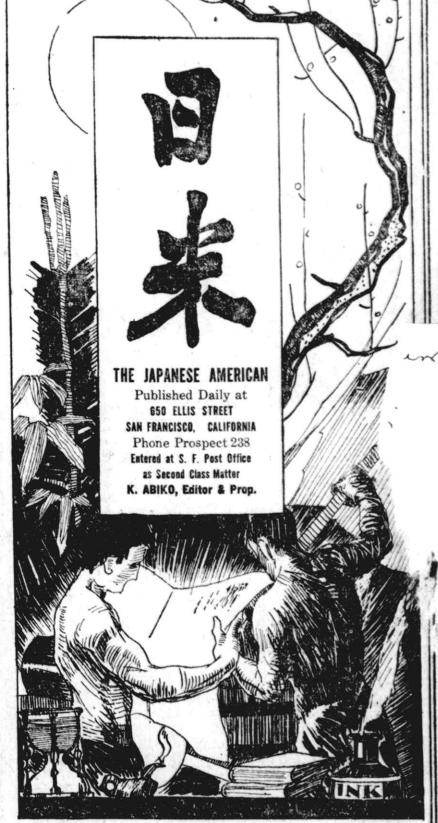


日米

THE JAPANESE AMERICAN
Published Daily at
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA
Phone Prospect 238
Entered at S. F. Post Office
as Second Class Matter
K. ABIKO, Editor & Prop.



平和の建設時代

重大なる同胞
社會の轉換期

平和の建設時代
重大なる同胞
社會の轉換期
(一) 平和の建設時代
(二) 重大なる同胞
(三) 社會の轉換期

一九二六年度の實業界は繁榮へ

藏相・商相の意見が參酌し
て大統領クリッヂ氏觀測

一九二六年度の實業界は繁榮へ
藏相・商相の意見が參酌し
て大統領クリッヂ氏觀測

對支協定に参加

米國大統領の招請に應じ
然し關稅會議には不参加

對支協定に参加
米國大統領の招請に應じ
然し關稅會議には不参加

米國の軍縮參加

佛新聞論調

米國の軍縮參加
佛新聞論調

南フランスの春

三宅克己畫伯筆



南フランスの春
三宅克己畫伯筆
(本報新年賀圖の)

對獨密約を求む

露獨中立條約の非公式交渉
首相に會見要求

對獨密約を求む
露獨中立條約の非公式交渉
首相に會見要求

印度へ赤化の魔手を延ばす

將軍歸米説
健康を害して

印度へ赤化の魔手を延ばす
將軍歸米説
健康を害して

東西文明の融合と

太平洋關係調査に就て
小松隆

東西文明の融合と
太平洋關係調査に就て
小松隆

第二世と精神運動

加藤鈴之介

第二世と精神運動
加藤鈴之介

獨逸華府會議の

對支協定に参加

獨逸華府會議の
對支協定に参加

佛佛協商

露佛協商

佛佛協商
露佛協商

獨逸華府會議の
對支協定に参加
佛佛協商
露佛協商

日本見學團員得票數

Table with columns for location (地方別) and number of votes (得票數). Includes entries for various cities like Tokyo, Osaka, and Kyoto.

海軍飛行隊が大規模に アラスカを測量

海軍飛行隊が阿拉斯カを測量するに當り、四飛行機御用船一隻で、一萬二千呎の高所から...

性を變る魚の 科学の力

雌雄の卵を接合するに精力の強い方の性が出来る...

木紙新年號

Table listing authors and titles for the New Year issue of 'Mokushiji' magazine.

御開始

何れも四日から、御開始...

黎明期の民衆外交

黎明期の民衆外交の重要性を論じている...

新夜春寶

新夜春寶の発行と内容を説明している...

二千萬の 絹織物

絹織物の生産と輸出に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

在日記念號の 編纂抄す

在日記念號の編纂と抄すに関する記事...

神奈川縣人会

神奈川縣人会の活動と目的に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

尊由師に贈呈

尊由師への贈呈に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

日米要求

日米間の要求と交渉に関する記事...

Large advertisement for Japanese travel services, including '日本旅行' (Japan Travel), '日本ホテル' (Japan Hotel), and '桑港旅館' (Sangkang Hotel).

Advertisement for '大正薬舗' (Taisho Pharmacy) and '田村旅館' (Tanikura Ryokan), listing various medicines and services.

Large advertisement for '長旅館' (Chang Ryokan) and '桑港旅館' (Sangkang Hotel), featuring shipping schedules and contact information.

梅花薫る初春に
宮様三方の御慶典
閑院宮家には御二方の御婚儀
伏見山階兩宮家にも御悦び

何れも今回御婚約公表
(東京聯合通信) 閑院宮正親王殿下(正親王)と...

徐將軍暗殺の内幕
直隸省都督停車場に於て
基督將軍の従弟に狙撃され

最近歐米視察より歸る
(北京電) 北京臨時政府の徐世昌は、前日...

病人も上陸できる
布哇で小川事件で新判例現る
移民法の新解釈

中橋氏外廿一名
遂に本黨を脱退す
別に一黨を樹立の意嚮なるも
今期議會中に實現不可能か

絕對多數
本報東京特電 三十日正午着
反對黨は百八十三名
賛成黨は百六十六名

今議會政府黨
反對黨は百八十三名
賛成黨は百六十六名

初登山
デアプロ山や
タマルバイへ
(東京聯合通信) 山階宮正親王殿下(正親王)と...

新春を迎えて
一段の進境を示す
これらが大大活動
本社見學團員入選

英文懸賞論文
當選者
(東京聯合通信) 英文懸賞論文の當選者は、...

邦人催しの數々
芝居に講演運動其他
男女學生の

新派劇
二二日間
芝居に講演運動其他
男女學生の

卓球大會
三日青年會
三日青年會
三日青年會

蘭船差押
高田商會の
高田商會の

為替新相場
(東京聯合通信) 為替相場は、...

劇場案内
面白い映畫
(東京聯合通信) 劇場案内、面白い映畫...

英海峽橫斷
懸賞金
(東京聯合通信) 英海峽橫斷懸賞金...

水泳會
本日の新年
(東京聯合通信) 水泳會、本日の新年...

蹴球戰
本日の新年
(東京聯合通信) 蹴球戰、本日の新年...

法務部運動
在日會では
(東京聯合通信) 法務部運動、在日會では...

新春早々三ヶ所所
初鳴き日白ローラ會
(東京聯合通信) 新春早々三ヶ所所...

定期總會
明日より續々
(東京聯合通信) 定期總會、明日より續々...

總領事官邸の
拜賀式
(東京聯合通信) 總領事官邸の拜賀式...

御家庭用各種
キャンデー
(東京聯合通信) 御家庭用各種...

新年會
都山流尺入
(東京聯合通信) 新年會、都山流尺入...

竹の家
竹の俱樂部
(東京聯合通信) 竹の家、竹の俱樂部...

石澤豊作
利彌
(東京聯合通信) 石澤豊作、利彌...

尋人
北池千太郎君に對して
(東京聯合通信) 尋人、北池千太郎君に對して...

東洋通信社
電話番號變更
(東京聯合通信) 東洋通信社、電話番號變更...

賀正
常光事務所
(東京聯合通信) 賀正、常光事務所...

賀正
東洋通信社
(東京聯合通信) 賀正、東洋通信社...

賀正
電話番號變更
(東京聯合通信) 賀正、電話番號變更...

寫眞學校生徒募集
府羅
オリピックホテル
府樓

府樓
メインホテル
Cor. 6th & M. St., Sacramento, Calif.

奧野法律事務所
1071 Webster St., San Francisco, Tel. Wabant 74

市川市當歌舞伎一座
桑港興行會社
正月初一、二、三日 布市

通信教授部
小幡女子裁縫學校
San Francisco, Calif.

港すし
物名すき焼
元祖博多屋

相馬茶店
23 E. First St., Los Angeles, Cal.
The Vanderhook Ticker 790

居芝月正
新派劇
正月一日、二日の兩日毎夜七時

萬
電話番號變更
電話フイルモア

正 賀

桑 港 の 部

鬼木泰教 聖野野矢 野崎金一 金鹿 鈴鹿 烈子 井上美枝 東洋種物會社 田中サカ子 竹本氏駒 渡邊金次郎 板谷時計店 みじま 持木鐵五郎 旭ホテル 田守吉弘 高尾鶴松 劉日初 小幡縫女學校 大森彦太郎 畑 篤松 北 三雄 高澤晴吉 戸島佐一郎 高井仁吉 高井啓三 林豆腐店 石井安太郎 石井定吉 藤井半次郎	土井口祐太郎 藤本百太郎 藤本貫一 橋本利助 河邊一二 上田基吉 田村鶴之助 ネツ煙草店 桑島億松 藤浦基 松尾音吉 清水友吉 古木榮造 深谷清八 半田定太 黑河鶴吉 若江直喜 都堂製菓店 ハツベーカーリー ボスト街一五九五	坂井製圖所 深貝嘉造 猪野哲雄 松山篤雄 鈴木多々商會 井上源吉 柳原福太郎 羽衣 前田龜次郎 稻津熊八 出野靖一 松野なを江 廣東樓 錦花樓 萬花樓 東洋軒 近藤精二 村上淺次郎 堀越清次郎 肥後利助 石井樂三 石田太造 宮川政喜 中島鎌太郎 中村一郎 鹽田要藏	谷靴工店 八木勇熊 矢田部爲次郎 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 久保川 廣 久保川 良知 外職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同 職 員 一 同	半田精一 原常助 人見藤右門 花本信吉 廣田要 久島好光 樋口德實 廣瀬孫太郎 池田久藏 井浦兄弟 飯田俊彦 岩下民次郎 小西正勝 小池專作 小林藤平 小林由藏 栗田秀吉 近藤宗助 川島宇市 松本豊松 森本竹區 森内庫太郎 水取德松 溝元佐市 増田乙吉 道田彌市 仁田坂豊太 中田忠左門 中村松太郎 西岡光太	流田春太 長野乙作 大森勝之助 太内宗一 荻吉三郎 宗田一一 重住杏之助 仰木又助 佐藤友平 佐藤兼藏 須田チカ 鈴木俊三 田中常助 鹽澤喜久哉 笹島滋 坂本ヂヤキ 竹下重太郎 戸田國續 竹歲百藏 田上源右門 田邊助一 田中小十郎 梅窪正樹 有働常次郎 和田友信 山本初太郎 吉岡彦一 山崎平作	青木軍次郎 天野仁兵衛 馬場利三郎 土井稔一 後藤藤太 橋本守人 林 かつ 今井定四郎 飯田榮藏 池之上文二 石塚喜一郎 駒田篤之 笠井繁治 京谷石松 河村吾市 小徳林次郎 川口勘九郎 美濃部弘 益子 恒 松村勝次郎 湊屋與三松 的井宅治 永見松子 中村繁市 中島謙喜知 大澤源之助 小園千浦 市尾喜一郎 市尾初子
--	---	---	---	---	--	---

北野ホテル

桑港クレイ街九四九
北野 基次

謹賀新年

且元月一

桑港製菓業組合

武田菓子店
武田德太郎

葬儀社

マーテン・エント・ブラウン
1515 SCOTT ST., SAN FRANCISCO
TELEPHONE WEST 10

河合玉場

河合辰次郎

歌月亭

御目出度う相變らず
劍持寅吉

酒巻末治
野々口一誠
稻留正吉
末永勇吉
汐崎善之助
露木武雄

白井省三
渡邊金之助
渡邊重夫
弓矢竹虎
安河内龜太郎
上村伊太郎

上野長太郎
外一同

謹賀新年
一月一日

謹賀新年

一月元旦

紐育生命保險會社

北加代理人

- 永井 元 松田午二郎
1655 Post St. Tel. Main 310
- 田中象次郎 武田 正夫
733 Stockton St. Tel. Main 533-W
- 湯淺 龜藏 片岡 貫一
268 8th St. Tel. Main 200-W
- 竹下 静馬 杉本 新助
817 17th St., Oakland Tel. Main 912
- 植山 治太郎 澁谷 猶之助
1501 Mc Gee Ave. Tel. Stockton 508-W
- 山口 青峰 井口 將邦
2514 Shattuck Ave. Tel. Stockton 508-W
- 木村 俊雄 村谷 儀二郎
150 N. 1st St. Tel. Fresno 123
- 矢野 定夫

勉 強 堂
花 月 堂
松 月 堂
春 月 堂
しののや
武田菓子店
武田德太郎



富の勝利者

鈴木 蘭一 郎

我が日本の社会には、労働階級の階級が著しく現れて来た。...

最後の決心
長谷川紅雨作
「君は、何をするつもりか？」...

【一】 富の勝利者
【二】 富の勝利者
【三】 富の勝利者

【四】 富の勝利者
【五】 富の勝利者
【六】 富の勝利者

謹賀新年
オグデン市
鈴木壽智治
吉高棟
村上甚吉
山口登利
井芹順藏
高橋為吉
高橋猛
秋貞松吉
松末和吉
川口榮太郎
下前松太郎
岩本信二
大石光二
佐々木勘太郎
鹿島米藏
向井健次郎
秋山磯太郎
益井平次郎
高村彦一
堅山亮太郎
白澤漂舟

馬場梅楠
岡本床
岡本萬六
岡本正策
松谷タキ代
長谷川榮次郎
大河内佐兵衛
梶原又三郎

謹賀新年
ALBERT H. ELLIOT
GUY C. CALDEN
Attorneys and Counselors at Law
PRACTICING BEFORE THE
U. S. SUPREME COURT, WASHINGTON, D. C.

恭賀新年
奥殿市伴假家商店
假家卯太郎
宇野八郎
坂田徳一郎
畑平太郎
辻本榮三郎
ミセス・ロ一

謹賀新年
三井物産株式会社
石津實藏
加藤きよ
北村松之助
松井周次
壬生三樹衛
宮木貞次

謹賀新年
株式會社 鈴木商店桑港出張所
桑港カリホルニア街三五五(サンソム街角)

謹賀新年
桑港 日米新聞社
本社員 (ABC) 順
安孫子久太郎
安孫子康作
青柳國弘

謹賀新年
堀川昇次郎
日敷彦太郎
東榮藏
原信太郎
府波かめい
福地篤
遠藤照治
浅野七之助

謹賀新年
中野房吉
野澤與二郎
西方長平
西田一雄
吉田宣光

長橋完成

一哩の大河上に... 長橋完成のニュース記事

交通自在なる

交通自在なる... 交通に関する記事

天は潤く地は豊

天は潤く地は豊... 天候に関する記事

囚人往診最中

囚人往診最中... 囚人への医療に関する記事

須日實聯合

須日實聯合... 須日実聯合会に関する記事

式送拜順序

式送拜順序... 式送拜の順序に関する記事

火の矢組を迎へ

火の矢組を迎へ... 火の矢組に関する記事

籠球試合

籠球試合... 籠球試合に関する記事

賀正

賀正... 正月の挨拶に関する記事

普小刑金庫

普小刑金庫... 普小刑金庫に関する記事

吉原佐一郎

吉原佐一郎... 吉原佐一郎に関する記事

宇佐美兼太郎

宇佐美兼太郎... 宇佐美兼太郎に関する記事

山口倉藏

山口倉藏... 山口倉藏に関する記事

岩橋要藏

岩橋要藏... 岩橋要藏に関する記事

今田水菓店

今田水菓店... 今田水菓店に関する記事

吉村菊之丞

吉村菊之丞... 吉村菊之丞に関する記事

正月餅

正月餅... 正月餅に関する記事

津田商店

津田商店... 津田商店に関する記事

時計師 府川

時計師 府川... 時計師に関する記事

ライオン薬店

ライオン薬店... ライオン薬店に関する記事

田口事務所

田口事務所... 田口事務所に関する記事

山尾醫院

山尾醫院... 山尾醫院に関する記事

岩本齒科醫院

岩本齒科醫院... 岩本齒科醫院に関する記事

青木樂器店

青木樂器店... 青木樂器店に関する記事

謹賀新年

謹賀新年... 新年の挨拶に関する記事

濱井回春堂藥店

濱井回春堂藥店... 濱井回春堂藥店に関する記事

日米藥種

日米藥種... 日米藥種に関する記事

直輸入商

直輸入商... 直輸入商に関する記事

友銀行員

友銀行員... 友銀行員に関する記事

小笠原雄二郎

小笠原雄二郎... 小笠原雄二郎に関する記事

杉山航三

杉山航三... 杉山航三に関する記事

町田貞三郎

町田貞三郎... 町田貞三郎に関する記事

HAMAI KAISUNDO Co. 1206 3rd St. Sacramento, Calif.

濱井回春堂藥店 電話メー 二九二二一

天野 醫學士 天野 貴

工藤齒科醫院

木村材木店

修羅八荒 (十六)

お後室様 (一)
お後室様は、別荘に遊びに来た...

行友季風作

懸賞詰将棋解答
(巴市 鈴木氏寄)

謝鈴木氏
國松一香

お後室様 (二)
お後室様は、別荘に遊びに来た...

大阪大藥店
各種薬品、化粧品、衛生用品の広告。

岩城ブロード
THE IWAKI DRUG CO.
各種薬品、化粧品、衛生用品の広告。

丸經通製逸獨
TENSHO-DO DRUG CO.
婦科、産科、小児科の薬品。

日本本日
NIPPON DRUG CO.
各種薬品、化粧品、衛生用品の広告。

北米病院
各種内科、外科、小児科の診療。

加州眼科
各種眼科の診療。

藤森醫院
婦人科、産科、小児科の診療。

かまぼこ
製造卸小賣
かまぼこ、海苔などの加工食品。

上海樓
各種中華料理、飲茶の店。

英語教授
英語の学習、会話の練習。

御料理
高級料理、宴会の場。

かまぼこ
製造卸小賣
かまぼこ、海苔などの加工食品。

紙用票投
投票用紙の提供、選挙の準備。

Dr. LAU YIT-CHO
502 Grant Ave., S. F.
皮膚科、外科の診療。

SK家具合資會社
家具の製造、販売、修理。

THE SUMITOMO BANK, LTD.
住友銀行の支店、業務の紹介。

度年五拾正大
各種日記、帳簿、事務用品の広告。

瑞穂商會
各種日用品、食品の販売。

加州旅館
観光客のための宿泊施設。

堂春大
THE TAISHUN-DO
化粧品、美容用品の広告。

正賀 桑港の部

<p>在桑港日本總領事館 武富敏彦 祥端專一 柴田市太郎 金子豐治 關春水 飯山七郎 增尾儀四郎 川崎寅雄 中島薰 三浦芳郎 犬飼綾子 奧津千惠子 佐藤こしじ</p>	<p>在米日本人會 牛島謹爾 瀧本爲三 松岡亮作 尾崎善藏 エム・エー・ミチエ</p>	<p>桑港日本人會 大澤榮三 齊藤重光 駒田貞良</p>	<p>北米佛敎本部 楠原龍誓 岩男憲之 高橋覺惠 大田敏之 富山昇</p>	<p>桑港學園 教職員一同</p>	<p>謹賀新年 シスター幼稚園 桑港オクサビヤ街二七五</p>	<p>美以敎會 津田彌三郎 美以敎會員 美以青年會</p>	<p>日本人基督教敎師 秦庄吉 教會員一同 ボストン街一五〇〇</p>	<p>桑港第一リフオムド敎會 幸田宗平 教會員一同 ボストン街一七六〇</p>	<p>聖公會敎師 田島準一郎 教會員一同 ブキャナン街一七三三</p>	<p>教世米在米日本人會 小林政助 古庄長弘 山根盛美 遠藤盛美 山田萬治郎 東海林民治 塚本祐三郎 眞鍋竹次 中溝嘉伊藏 大橋陳平</p>	<p>基督教青年會 富澤清 沼尻長十郎 木庭道雄 ウチヤンセンター・ウチヤン</p>	<p>金門學園 鈴木孝志 瀧口啓次郎 具志堅政賢 金子峰 福田マサヨ</p>	<p>橫濱正金銀行桑港支店 小島久太 福地恒雄 本村良則 堤馬重太郎 兒馬重太郎</p>	<p>東洋汽船株式會社 本島賢三 糸川三郎 伊藤三五郎 北川正惠 橋田良明 小松隆 仲海藏 中原福藏 野村貞吉 田中健三 田中一正 田山敬喜</p>	<p>住友銀行桑港支店 津山昇 佐藤鶴吉 原三郎</p>	<p>桑港日本人商業會 渡邊久克 金丸健兒 田島安太郎 エムカラドレー 長谷川徹</p>	<p>市橋倭 塚本松之助 青木道嗣 立川直二郎 三上英一郎</p>	<p>日本洋行株式會社 杉原軍造 新納吉太郎 小林武平</p>	<p>日本洋行株式會社 藤岡孝一 小豆澤兵重 原田泰 石田四郎 平島音松 甲斐龜八 片峰健造 菅原清一 松本長次郎 本谷權六 野村勝太郎 野村堅司 野村政一 中西村市 大岩松吉 太田英一郎 里田依三 坂倉憲治 鈴木玻璃 津森安次 高木夏子 土屋澤子 山崎孫一</p>	<p>川島耕作 嘉納千太郎 野村滋明 堂本譽之 村井次郎 中溝英治 磯川辰次郎 村上隆一 宇野正道 宇野光周 中原初喜 角田常男 福田幸次郎 杉本幸八郎 桑谷喜義 氷見仁平 小澤久</p>	<p>共同信託會社 東ヶ崎菊松 東ヶ崎潔 金澤芳太郎 岡本春三 福留與之丞 佐野壽 吉岡彌之助 山城三郎 大川福松 望月滋司 多和田立雄</p>	<p>野中商店 野中正一 長森富太郎 松野實樹 猪野邦策 陰山鐵次郎 宮本孔信 吉岡金太郎 辻坂震三 白井和三郎</p>	<p>日本商會 加古得哉 富田勝重 加州海產商會 西本良祐 柴田勝助 歌崎商會 市岡邦雄 宮島貿易商會 藤井澄人 宮川金太郎 上山三藏 五車堂店員一同</p>	<p>寺澤久吉 山川俊三 麻生山藏 井村坂之助 小林彦次郎 永井元 永井ゑい子 相澤美代志 三上志茂 藤田省三 林德太郎 林秀樹 檜垣益一 井戸本保之助 西長德 小川榮一 田中敏太郎 山本辰雄</p>	<p>村上惣衛門 井上三吉 中田倉次 島本宇佐市 鈴木商會 太田永太郎 小淵喜一 保田商會 松岡萬之助 西岡佐吉 石嶋勘二郎 杉山商會 井上琴治 井上晉 松村武四郎 吉澤商店 大村末吉 荻澤寫眞館 奧定吉 星野甘堂 水原兵助 エス佐藤美術店 大和寫眞館 芹野伊勢吉 兩角傳</p>	<p>有馬保險事務所 中林小四郎 伊藤龍三郎 一安博孝 森川福松 德永十九歲 丸岡重光 榎田一矢 山形莫越 米神印刷所 東海活版所 房木延助 原田竹之助 森山三郎 中原利晴 ポスト寫眞館 服部彦次郎 原田正專 玉城龜 高田余吉 森下平三郎 宇佐美源次郎 野口才助 南部千代太郎 橋岡俊一 木下壽雄 田村寅吉</p>	<p>小川本太郎 栗原貴之助 宇野純一 田村信吉 東京ホテル 榎本峰吉 高橋力 山本洋服店 荻澤刺繡店 磯江太郎 中島貞治 宇佐美錦一 早田國夫 楠守信 ウエスマ刺繡店 安立彦二 堂本切花店 本多花店 榎本定楠 井上花店 大石德太郎 大石米太郎 桑港切花卸商 白銀千代子 追田與三郎 齊藤廣次 安井惠喜太 ゴッラペー洋食店 國部仲助 南清次郎 南常松</p>	<p>萬木床 藤井理髮館 いつき床 片山貫一 春日床 村田床 三原床 大和多床 鈴木床 大正床 岡本 山崎千吉 矢部床 富士湯 寛龜四郎 湊湯 齊藤良一郎 森長一 八木イク 太平洋湯 宇井邦造 大正湯 秀島七三郎 堀桂庵 前田英雄 大谷桂庵 小林安治 小宮山成巳 西山熊之助 花園彦喜</p>
---	---	--	---	-----------------------	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	--	--	--	---	--	--	---	---	--

お娘の心もけいこ

白糸あふるる

ヨセミツの山

筆直師由尊谷大

在米同胞の聲！

私の希望—婦人から婦人へ—

娛樂—渡米の動機—家庭の食事— 子供に良習慣をつけた経験等

御主人へ
一、在米の日本婦人に望まされること
二、貴殿の娛樂は？その理由
三、貴殿の御渡米の年月日、其動機

奥様へ
一、在米の男子に望まされること
二、御家庭は洋食日本食何れが主で
すか、その理由
三、子供に良習慣をつけた経験

小島 久太
一、手近なところでは一家の收支を掌るべきの立場を手にし、家族の健康、幸福、教育に心を配るべきである。二、家族の健康は家族の幸福の基盤である。三、家族の幸福は家族の教育の基盤である。四、家族の教育は家族の健康の基盤である。五、家族の健康、幸福、教育は家族の責任である。

新井 領一
一、渡米の動機は、日本の生活環境が狭いからである。二、渡米の動機は、日本の生活環境が狭いからである。三、渡米の動機は、日本の生活環境が狭いからである。四、渡米の動機は、日本の生活環境が狭いからである。五、渡米の動機は、日本の生活環境が狭いからである。

竹内 幸次郎
一、他人の噂を聞き流す。二、他人の噂を聞き流す。三、他人の噂を聞き流す。四、他人の噂を聞き流す。五、他人の噂を聞き流す。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

山口 倉藏
一、家族の健康は家族の幸福の基盤である。二、家族の幸福は家族の教育の基盤である。三、家族の教育は家族の健康の基盤である。四、家族の健康、幸福、教育は家族の責任である。五、家族の健康、幸福、教育は家族の責任である。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

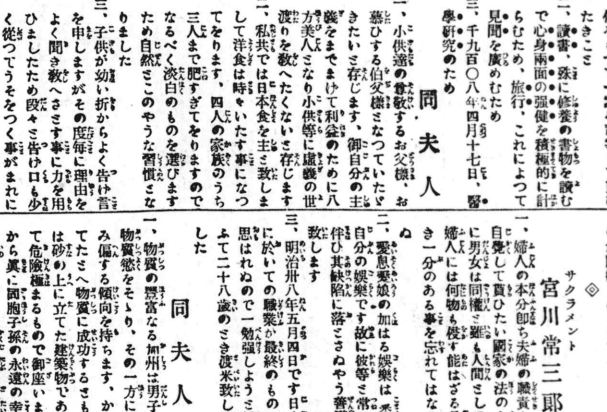
同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

大谷尊由師直筆
ヨセミツ風景をスケッチされたもの



同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。

同夫人
一、日本の生活環境が狭いからである。二、日本の生活環境が狭いからである。三、日本の生活環境が狭いからである。四、日本の生活環境が狭いからである。五、日本の生活環境が狭いからである。



今日のふ

近藤長衛

「本年は昨日だったか、来年こそは...」と大抵の人は言ふ。そして其の言の裏には、無常の心算が透り透りである。...

「昨日」は過去なり、遠くもへ切れぬ。今日、明日は、明日は明日の我が身なり。...

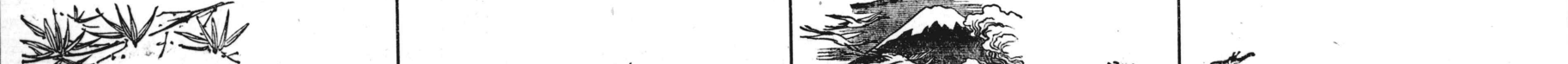
「今日」は、昨日の延長線上に在る。昨日の延長線上に在る。...

「明日」の事は、昨日の延長線上に在る。昨日の延長線上に在る。...

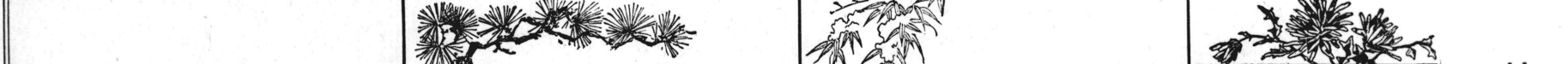
「昨日」は過去なり、遠くもへ切れぬ。今日、明日は、明日は明日の我が身なり。...

虎の話

寅歳に因りて、虎の話を聞かざる人はいない。虎は十二支中、最も力強い動物である。...



御料理 うづまき 謹賀新年 高等御料理 うすづみ 菊川亭 明けまして御目出たう 本年も相變らず



恭賀新年 吾妻洋食店 竹の家 高等御食事 萬田 明けまして御目出度ふ 本年も相變らず御引立を

正に好景氣に入れる 米國の經濟界

一陽來復時機到り 積極的態度に出で

邊 久 克

日本の經濟界は米國の經濟界の好景氣に對して、漸く積極的態度に出で、一陽來復の時機に到つてゐる。

米國の經濟界は、最近一、二年来の底冷えの間に、米國の生産力は著しく進歩し、米國の輸出力は著しく増進した。米國の輸入力は著しく減退した。米國の貿易は著しく増進した。米國の國際收支は著しく改善した。米國の金貨は著しく増進した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の債券相場は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の失業率は著しく減退した。米國の生活水準は著しく向上した。米國の國民生活は著しく豊かになった。

米國の經濟界は、最近一、二年来の底冷えの間に、米國の生産力は著しく進歩し、米國の輸出力は著しく増進した。米國の輸入力は著しく減退した。米國の貿易は著しく増進した。米國の國際收支は著しく改善した。米國の金貨は著しく増進した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の債券相場は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の失業率は著しく減退した。米國の生活水準は著しく向上した。米國の國民生活は著しく豊かになった。

第一世をして 憂國の士たらしめよ

在日會館事務 岡 亮 作

二、數年來の底冷え

一九二一年の米國經濟界は、一、二年来の底冷えの間に、米國の生産力は著しく進歩し、米國の輸出力は著しく増進した。米國の輸入力は著しく減退した。米國の貿易は著しく増進した。米國の國際收支は著しく改善した。米國の金貨は著しく増進した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の債券相場は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の失業率は著しく減退した。米國の生活水準は著しく向上した。米國の國民生活は著しく豊かになった。

三、好景氣は事實か

米國の經濟界は、最近一、二年来の底冷えの間に、米國の生産力は著しく進歩し、米國の輸出力は著しく増進した。米國の輸入力は著しく減退した。米國の貿易は著しく増進した。米國の國際收支は著しく改善した。米國の金貨は著しく増進した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の債券相場は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の失業率は著しく減退した。米國の生活水準は著しく向上した。米國の國民生活は著しく豊かになった。

四、物價の騰貴

米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。米國の物價は著しく暴騰した。

五、株式相場の暴騰

米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。米國の株式相場は著しく暴騰した。

六、手形交換高の増加

米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。米國の手形交換高は著しく増加した。

七、通商手形の買上り

米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。米國の通商手形の買上りは著しく増加した。

八、預金額と金利

米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。米國の預金額は著しく増加した。

九、破産の漸減

米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。米國の破産は著しく漸減した。

十、労働賃金の騰貴

米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。米國の労働賃金は著しく騰貴した。

十一、積極的態度に

米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。米國の經濟界は著しく積極的態度に出でた。

十二、輸出貿易

米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。米國の輸出貿易は著しく増加した。

桑港日本人旅人社組

謹賀新年

桑日本人旅館
組合事務所
桑港マーケット街五四九

- ミカド・ホテル
- 加州館ホテル
- 防長旅館
- 田村旅館
- 名古屋ホテル
- 紀の國屋旅館
- 永本旅館
- 日本ホテル
- エビス・ホテル
- 南海屋旅館
- 近江屋旅館
- 熊本屋旅館
- 安藝ホテル
- 井木旅館
- 北米ホテル

恭賀新年

桑港日本人食料品卸商組合 (ABC順)

- 中央貿易株式會社
- 波多江商會
- 石光商店
- 陰山商會
- 共同消費會社
- 日本商會
- 北米貿易株式會社
- 東洋貿易株式會社
- 太平洋貿易株式會社

一月元旦

一月元旦

當選懸賞論文

第一世は第二世に對して 何を爲すべきか

第一世は第二世に對して何を爲すべきか... 第二世に對して何を爲すべきか...

第一等當選

成田 海南

第一等當選... 成田 海南... 第一世は第二世に對して何を爲すべきか...

第二等當選

月見草

第二等當選... 月見草... 第一世は第二世に對して何を爲すべきか...

第三等當選

中村 秋季

第三等當選... 中村 秋季... 第一世は第二世に對して何を爲すべきか...

第一世は第二世に對して何を爲すべきか... 第二世に對して何を爲すべきか...

第一世は第二世に對して何を爲すべきか... 第二世に對して何を爲すべきか... 第一世は第二世に對して何を爲すべきか...

謹賀新年 大佛商會 井出商會 金門女洋服店 松岡商店 鹽田美術店 杉原商會 立本商會 貿易商

恭賀新年 桑港魚市場 ホーム洗染株式會社

賀正

防長旅館

館主 有馬時國

永本ホテル

館主 永本要藏
支配人 服部彦次郎
自動車部 ジョー

熊本屋 商旅館

館主 土田和子

近江屋

商旅館
びわこ湯
店主 森野庄吉
支配人 森野宇三郎

るびすホテル

郷原謙藏
外一 同

安藝ホテル

主人 片岡一郎
支配人 後藤繁藏

賀正

加州ホテル

館主 中野作太郎
営業主任 倉智佐十郎
外一 同

南海屋旅館

グリー街一五二三
主人 福島仙藏
支配人 末弘時義

井木ホテル

井木玄一郎

松岡ホテル

主人 小野田彦太郎

日本ホテル

旅館部
アパートメント
主人 田中米吉
外一 同

長商店

正 賀
ブキヤナン街一八三六
長 は な

寶上商店

正 賀
和洋食料品、雑貨、玩具類卸小賣
ブキヤナン街一七〇七

金門商會

正 賀
かまぼこ、鮮魚食料品
桑港ゲリー街一五二九

クラムス商會

謹賀新年
和洋食料品
ポスト街一五八六
中井清次郎

OK食料店

正 賀
便利で安い店は
木下勝太郎

萬屋商店

正 賀
和洋食料品雜貨
勝浦直太郎
外店員一同

五車堂

桑港ポスト街一六九八
在東京 小野昇六
支配人 相澤金丸 外一同

日の本商會

謹賀新年
石井金治

日本ドラッグ

調劑の御依頼に應ず
桑港ポスト街千六百九十番
電話ウエスト一八六

桑港日本人藥種業組合

北米藥舖 ○○藥舖
大正藥舖 大阪藥舖

河内屋商店

子供着物類一切
ラダ街一五四七
辻坂なみ

小田運送所

ポスト街一七七八

桑港運送會社

米津彌吉

廣島屋旅館

ポスト街一六三四
桑子アキ

和田石炭商會

ブキヤナン街一五三三
和田安松

吾妻屋商店

謹賀新年
梶浦政次郎

謹賀新年

蜂

谷

商

會

支店 蜂松
支配人 谷岡
登彌 八郎
代理 治郎

一月元旦

忌中につき
年賀欠禮

金門公園

日本庭園

萩原五郎

恭賀新禧

小野貿易株式會社

桑港支店

桑港カリホルニヤ街二五二

恭賀新年

住友銀行

株式會社

桑港支店...カリフォルニヤ街二一五三二二五

羅府支店...南サンビドロ街二〇〇(東第二街角)

加州住友銀行 櫻府エル街四〇〇

THE JAPANESE AMERICAN NEWS

650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO, CALIF.
TELEPHONE PROSPECT 238.

K. ABIKO, Publisher.

NEW YEAR'S EDITION

THE YOUNGER GENERATION

BY
ELIOT GRINNEL MEARS

The Japanese problem, in a nut-shell, is a situation created by the difference of the Japanese and the Americans in culture, and political, economic and social background. The situation, however, has been aggravated by a lack of mutual understanding between these two peoples. This problem awaits a peaceful settlement by a mutual, friendly approach and co-operation of the people involved. Unless they are willing to approach each other in a friendly way and reveal themselves in order to clear away doubts and suspicions which arise from the lack of understanding, the solution of the problem will be out of the question.

The Survey of Race Relations on the Pacific Coast came into being a few years ago with an avowed purpose of finding facts of the Japanese problem and other problems. It has been engaged in the work of scientific, therefore, impartial, investigation and study of various phases of the complicated question. Professor Elliot G. Mears, the contributor of the following article, is at present its executive secretary. That he is well qualified to speak on the problem concerning the Japanese in their relations to the Americans and vice versa is beyond question. His article seems to us a friendly challenge to the Japanese people, both old and young, to help promote common understanding and goodwill between themselves and the Americans. The Japanese American News trusts that his challenge will not remain unheeded, and that there will come forth many of our readers who will respond to his call in an appropriate way.

The Editor

All persons born on American soil are Americans. This is one of the corner-stones underlying our commonwealth and is justly regarded as a great source of our national strength. Those exceptions which sometimes arise, due usually to some other expressed desire by foreign governments, nevertheless are in the nature of amendments to this American conception. This short article of mine is addressed to the Younger Generation.

One fact which politicians and even otherwise careful students overlook is that the strength of any community is directly in proportion to the number, ability, and expressed actions of its human factor. Material resources do not constitute what we call wealth unless they are made useful to living persons. Moreover, what we call wealth is not the same thing as welfare even though the wise economists living a century ago confused these two different things. A rich person may be a liability in a community; a poor person may be a great asset. Foreigners are apt to measure America's place among nations in terms of wealth, but really the welfare test (which is hard to express in words and means something different to everyone) is far more important.

Welfare, too, depends upon whose welfare you have in mind. Take your own case. Is it a good thing for Japan that you are living in the United States? Is it a good thing for America? Is it a good thing for you? To me, it is always an interesting process to draw up something in the nature of a balance sheet, putting in two parallel columns the advantages and the disadvantages. Even if you do not tell anybody the result, it is one worthy method of self-analysis. To a people as eager for educational opportunities as those of Japanese race, this method of approach is truly instinctive.

Perhaps you do not fully realize that nothing worth while is ever accomplished unless people understand each other. Unfortunately the nature and number of contacts is always limited, partly because people do not know enough to care, and partly because they do not care to know. This is true between individuals of different races, of different social standings, and of different interests. It is always a question whether like attracts like or like attracts dislike—in other words, do we cherish the association of other people most like ourselves and of material things which are a part of our common knowledge and experience? To answer, one must consider first, last, and all the time the human equation. And no two people even of the same race are alike.

While America is called the world's greatest melting pot, it must never be forgotten that the product does not represent the sustaining of a single element to the exclusion of all others. No, it gives forth a fusion. And the quality of the output depends upon its components, none of which disappear entirely. Thus it is both undesirable and impossible for a Canadian, Englishman, German, Italian, or Spaniard to throw off at once or at any time inheritance and national qualities. Likewise in the case of Oriental parentage, such an immediate transformation is not expected by intelligent Americans. What is hoped for and expected is that beneficial national traits may be added to America's greatness, and that the individuals so concerned may decide rightly whether they are "aliens or Americans."

But the great need is understanding. To this end, The Survey of Race Relations, a wholly private study, is being conducted in British Columbia and the three Pacific Coast States. We want to find out personally and intimately what the nature of the contacts are.

We are trying to forget that there are people, organizations, a "yellow press," both here and abroad, that are trying to distort facts. Of course there may be a little truth or much truth in what we hear about and read, but who knows? The solution is, let everyone who knows anything, even though it may appear trivial, give us his or her account or story. Perhaps you may be interested in an extract from one of the life histories sent us from Southern California. It is chosen more or less at random from some hundreds in our growing collection:

I was born on the 15th day of April in the year 1900, at Kamada, what was then the quiet country in the north-eastern part of Japan.

When I was in the fourth grade of the middle school, I made up my mind to come to America for the purpose of studying English. So I left the school without a diploma. My friends were envious of my going abroad, for a foreign tour was the most attractive undertaking among the Japanese students. Several friends of mine tried again and again to come to America, but they all were disappointed to the end. So it was natural that I was envied by them.

It was three years ago when I came first to this country. I came from Yokohama to San Francisco, and on my way to this country I stayed in Honolulu for a day. I liked very much the beautiful view of Hawaii.

After a week I landed at San Francisco which I had wished to see for some time. My eyes caught a sight of the high buildings which I had seen in a picture. During my stay in San Francisco for a week, I looked around the city and outskirts. I was surprised to see beautiful roads those were as smooth as billiard tables. Still now I appreciate these wonderful roads in the state of California.

I then came down to Los Angeles by sea. The city was larger and more beautiful than I had expected. The numerous automobiles was one of my astonishments. Since then the city grew larger and larger every year. I thought that this was a real paradise in the world. The fine climate and beautiful city made me stay here where I had not planned to live.

By my friends advice I went into an American family as a school boy for the purpose of learning English, manners, and customs. For the first time in my life I went to work as a servant in another family. Work was hard. I got up in the early morning to make breakfast and wash dishes. I attended a grammar school in which I was extremely perplexed, for I could not hear what a teacher and pupils were talking about. Every afternoon when I got home from the school I began to prepare dinner. It took me by half-past eight

(Continued on page 19)

phenomenal renaissance, the era will soon approach when it will practically become a dead language in this nation. This will not merely affect us in society and business, but will affect the third generation, which will not have the opportunity of learning Japanese from their parents as have we. By taking advantage of our parents' knowledge we must educate ourselves and remedy this tremendous draw-back.

Many of us are inclined to lose hope for success because of our belief in racial prejudice. Yet, a careful investigation discloses there are and have been scores of prominent, successful Japanese in America. That alone, should suppress such a feeling. It is not the country you reside in which determines your success, but it is you—yourself. Let us remember, he who pursues success in the right way will achieve it, for it is never too late to succeed. Always do your best! Let us, the second generation, leave this world with the feeling that we have done at least one thing to benefit mankind, leaving it in a better condition than it was when we entered the world.

The Third Prize Essay

By HOWARD IMAZERI

Having one foot on the little island of Japan and another on the great New World, America, with the immense Pacific Ocean in between, is the situation in which the second generation Japanese find themselves!

The Caucasian race, the people who have been moving and advancing toward the east, have discovered this great new world and have attained their wonderful material civilization here; and now they have come to the very edge of this continent and have come face to face with the race to their west, the race of the sun-rising moving people, with their sound spiritual civilization back of them. Here these material and spiritual civilizations have met, each claiming itself as superior and looking upon the other as inferior. No doubt there will be some conflict between them. Some have tried to compromise, and most of them failed, on account of the difficulty, or I might say impossibility, of understanding the one another as clearly and vividly as himself, without prejudice.

The mission of us, the second generation Japanese, lies here! Our parents were badly misunderstood by Americans in the past, in many and different ways, because of their customs, ideals, and language; for this reason their endeavor to introduce some of their best qualities to Americans were an utter failure. But to us young people, who have understood both peoples in customs, ideals, and language, it is not an impossibility. It can be done! And it must be done, for the sake of humanity at large.

The oriental civilization, which consists mainly in art, religion, and philosophy, will be a great contribution to that of the Occident. We cannot hear any commotion in the air, but by swinging our right-hand in the space, but when both hands, right and left, come together with strength and hit each other, a new element, sound, is produced. The material civilization of the Occident has done an immense work toward improving the condition of human life. The spiritual civilization of the Orient has also done wonderful work toward the up-lifting of the spiritual power of men,

THE WINNING ESSAYS

IN
THE JAPANESE AMERICAN PRIZE ESSAY CONTEST
ON THE SUBJECT OF
"What Should The Second Generation Do?"

FOREWORD

The Japanese American News inaugurated its English section last April primarily for the benefit of the young readers of the Japanese stock born in the United States. This we did in conformity with our policy of keeping all our readers abreast of the times in all phases of activity, and of doing everything in our power to bring about a closer co-operation and better understanding between the Japanese and the Americans. Ever since we began this new section, we have been constantly urged and encouraged to carry on this work by numerous favorable comments coming from all walks of life, not to say the members of the rising generation of Japanese for whom the English section was primarily intended.

It is idle to say that the Japanese of the older generation, in the United States, as in Hawaii and Canada, are gradually receding from the scenes of industrial, agricultural, commercial and professional activities because of their advancing age. Their places, with some other new fields, are being now taken up by the members of the younger generation, who by virtue of their birth in the United States, are truly American in political and legal status as well as in spirit and action. There has appeared something of a psychological and intellectual gap between the members of the older and the younger generations. This we deem an inevitable sociological phenomenon arising from the difference in the past experiences and social and cultural background of the two generations nurtured in the different environments.

Such a gap, lamentable as it is from the point of harmony and goodwill at home and in society at large, must be bridged by the co-operative effort and

mutual sympathy of the two generations. It must not remain as it is, nor should it be allowed to widen to the detriment of our welfare. Any negligence to fill up this gap will sooner or later spell unnecessary tragedies such as family and social disintegrations of the Japanese in America.

Japanese of the older generation, as immigrants to America, have so far valiantly fought the battles of life, which was made harder by the mere fact of their being in the strange land, trying to adjust their ways of thinking and conduct to their new environment which has not always been hospitable to them. Some have succeeded perfectly, some fairly well, and others utterly failed. But all of them are now groping in the dark, so to speak, to reach and grasp the real spirit and conceptions of their sons and daughters born to them in the United States.

Will the younger generation open their hearts to the older generation in order that the two generations will come to a clear understanding between them so that the co-operation and mutual sympathy will be realized in deed instead of remaining a subject of a mere verbal agitation. This indeed was the motivating force which prompted the staff of the Japanese American News to promote a prize essay contest on the given subject of "What Should The Second Generation Do?"

We feel exceedingly gratified to have received many essays from the members of the Second Generation, and hereby desire to extend our sincere thanks to the winners whose articles appear below, and to all other contestants whose articles have received our careful consideration and deserve merit.

The Editor

The First Prize Essay

By RUTH MORISHITA

"Actions speak louder than words."

We realize fully that the position in which we find ourselves is a difficult one, and one from which we alone, as the second generation, must free ourselves. However, we should not sit leisurely by and say, "Well, what have we to do; we did not put ourselves into this position, so why doesn't the first generation get us out?" One often wonders if we fully appreciate what our parents must have sacrificed and how much effort they must have consumed in order to make us a home in this prosperous country under the protection of the stars and stripes. Our parents have toiled, and many are now toiling long weary years to give us the elementary, high-school and college educations we are now receiving.

This is their contribution to the solution of our problem and one of superlative importance. In the appreciation of the love and sacrifice of our parents we may well find a place to fulfill our duties as sons and daughters of the second generation.

In speaking to a friend, I learned that he was studying law in order to assist the Japanese farmers in California, in solving their problems of property and investment. This is an honorable goal for any member of the second generation to pursue. Oh, that many more of us would strive toward some such goal, so that we might help the first generation to simplify the situation—which is ours, now.

The members of the second generation should pay particular attention to the study of Japanese in coordination with the study of English. Peace is based upon understanding. To understand, one must obviously have a knowledge of languages. Moreover, we, the second generation, are in a very unique position. Being the first generation of Japanese born in America, we realize that we are the interpreters of Japan to America as well as the interpreters of America to Japan. How can we discharge this function without a thorough knowledge of both the English and Japanese language?

Furthermore, the members of the second generation should take the initiative in destroying racial prejudice. One of the best steps to attain this end is the organization of combined American-Japanese friendship groups where the young people of both nations may learn to understand and to be more sympathetic with each other. A specific example of this is the American-Jap-

anese Friendship Club of Berkeley. At the meetings of this club the vital problems affecting American-Japanese relations, as well as other points of interest, are discussed. I believe that if we, the second generation, can accomplish this mission of destroying racial prejudice, we shall have taken one of the greatest steps toward the solution of the difficulties which now stand between the Americans and Japanese on the Pacific coast.

The Second Prize Essay

By LIWA UKAI

Shakespeare said, "I hold the world but as a stage where every man must take a part." We, too, must take a part; prepared with a definite objective to strive for. The world is large and there are many occupations to choose; but life is short and therefore our choice must be conscientiously and carefully decisive.

We, the second generation, are the first large group of American-born Japanese, having totally different customs, likes and dislikes, mannerisms and opinions, from those of our parents from Japan, who came to this golden land of opportunity—the United States. Therefore, we are a new type of Japanese, who shall found new standards and traditions for the oncoming generations. We are entrusted with a great responsibility and must make it our duty to remember we are pioneers who will either lower or elevate the morale of our people.

Our hardworking and enterprising parents have sacrificed all, denying themselves of the few pleasures of life, spending their hard earned surplus in sending us to institutions where we may cultivate and develop our mental faculties so that we may enter manhood and womanhood with clean, wholesome characters, prepared to emerge successfully as victors over the unfathomable, unavoidable, and mysterious experiment called life. With our parents' undying faith as an incentive, each and every member of this second generation should strive to discharge his obligations to them by making himself an honor and not a disgrace to his family, his community and his country. We must not fail them.

The greater majority of the second generation is wholly illiterate concerning the essential factors of reading, writing, and speaking the Japanese language. There seems to prevail an indifferent and careless attitude regarding the use of Japanese, as being non-important. Unless there is a complete and



and it has also given ease and comfort to mankind. But when these two great civilizations come together in such a manner that they will blend, then they will produce a new and better element, that which cannot be produced from either of the two alone, the "sound"; or, other words, a better and nobler human society. The key for adjusting and unifying these two great ideas is in our hands. Therefore, we should investigate both ideas very carefully, even meticulously.

Our parents have left their old homes, friends, and country, to come over to America to make a settlement. With their high aims and ambitions, they have striven and struggled painfully to achieve the ideals that they had before them; but it was sadly betrayed and has come almost to nothing. Then, in this predicament, should we of the second generation Japanese look down upon them and take no action? No! For our future sake we should respect the first generation and continue both industrially and agriculturally to accomplish what our parents have planned, and even in a better way, with nobler ideals.

Thus, going into practical life, we should put the essence of the two civilizations, the material and the spiritual, into our daily behavior; and, first of all, we should raise the moral and social standard of Japanese communities, and set forth examples for others to follow. By thus doing, I strongly believe we will bring forth—unconsciously, but positively—a change in human life and in human society.

YOUNG PEOPLE'S ANSWERS

TO

The Japanese American Questionnaire

Due to the rise of the Second-generation of Japanese among our readers, the Japanese American News is undergoing certain radical changes. In order to meet the demands created by the changed conditions, and to be of the utmost service to our young people, their precise attitude on certain important questions must first be ascertained. For this reason we sent out the following questionnaire to our young readers through their various organizations, the answers to which are printed below. On account of the limited space those answers which came anonymously have been withheld from publication.

The Editor

OUR THREE QUESTIONS

1. What do the Second Generation want from the First Generation?
2. What kind of news and articles is most interesting to you?
3. What vocation are you planning to enter? and where?

Lillian Shizu Tomita, Fresno:

1. The most vital and discussed subject among the Japanese in America to-day is that the Second-generation should make every effort to understand the ideas, views and feelings of the First-generation. Various attempts are made toward that movement, but hardly a thing is done on the part of the First-generation to understand us, which is to be regretted. We are in the midst of a great change. Majority of the First-generation do not realize the struggles we are experiencing. Advice and views of the First-generation should be respected, for they have as their background, experience, and that alone is a valuable thing, but we cannot cling to the old traditions, regardless of how good they may be. The foundation of the good old traditions needs not be altered, but the "trimmings" must be changed to meet the demands of the new generation. Concession to a certain extent on the part of the First-generation, and co-operation on the part of both generations will tend to solve many of the grave problems that are confronting us to-day.
2. News on politics, social movements, science, etc.; current events; articles on racial, religious, and social problems; and a department devoted to letters and science.
3. Private music instructor. In America if possible, but probably in Japan.

Seinosuke Date, Fresno:

1. Unity of religions.
2. International news, and news from Japan.
3. Professor of sociology, or philosophy in Japan.

Fumiko Kawai, Fresno:

1. Interest in the young people. Conduct, strict, yet moderate within healthful and joyful environment. We want no misunderstanding between the two generations. The First Generation should individually mingle among young folks with true sympathy and dignity.

2. Articles on women of the world. Especially of Asia. Their works, interests, progresses.

3. A social worker among the women in America or Japan, because I am interested in the women's movement.

Shuzo Shingu, Fresno:

1. A. Educational Fund.
B. Good Leader.
2. A. Economical Conditions of Japan.
B. Politics of Japan.
C. Activities among Japanese Men's Clubs in the United States.
3. Vocation: Economist (Commerce). Place: United States.

Mary Obata, Vacaville:

1. I believe that we of the Second Generation want better co-operation and a better understanding of us from the First Generation.

2. All news and articles in the English Department are interesting to me, especially those telling of what different young people are doing in church work, play, and at school.

3. I do not know yet. Perhaps reading the English Department will help me make my decision.

(Continued on page 19)

賀正
明けまして御目出たふ
瑞穂商會
寫真器具一切

謹賀新年
桑港寫真俱樂部
ホスト街一六三九

賀正
坂部裁縫女學校
校長 坂部樂子
藤内なをみ
露木さよ子

賀正
中村裁縫女學校
校長 合田千春

桑港ウエスタ街一六二一
奥野法律事務所
奥野廣太郎

スタクソン街七三八
田中紐育事務所
田中榮次郎

横濱丸上貿易株式會社
石原代理店
石原 要

日本美術雜貨
リネン
ハウス
商會
横濱支店 高田 實司
山崎 敏夫
本島 幸次郎

賀正
ビージー
技師 寶田 健次

謹賀新年
桑港
松尾愛治

賀正
ウクラ
洋服店
店員一同

貿易商
バタリー街五一〇番
山手
山手笹人
山手正男

一丁目一四八三
大和商會
黒川 松三

ミカド
商會
岡本 新吉

賀正
岡田輸入商會
ファイルモア街一六二四
加藤喜三郎

賀正
加藤兄弟商會
有賀子之吉

ミツシロン街二二七六
賀正
東洋バザー
藤山 修三

ブキヤナン街三〇
中川商品館
主人 中川 若楠

賀正
惠美屋洋服店
栗原 節子

フサモア街一八三六
井上商會
井上 繁太郎
柳瀬 角一郎

ホスト街一五八〇
パシフィックモータ會社
湯川 八助

ホスト街一五八〇
パシフィック
山本 時藏

ブツシユ街一九一三
自動車修繕
並に 塗替所
湯蓋 新一

賀正
バイン街壹八二七
日本病院
フクトル 田中 政次

ブキヤナン街一七二五
北米病院
原 昌親

ブツシユ街四七〇
マンダ切花店
乙井 傳之助

花青、切花卸小賣
吉田花店
吉田 操

フサモア街一九三二
電話ウエスタ街三三七八
AB飯屋
セントアネー街 青山

賀正
ス井一ト
矢崎 辰雄
工場員一同

サウスパーク
松の家
松岡 彌八郎

桑港グリー街一五六二
キャピタル洗濯所
職員一同

謹賀新年
長唄 教授
杵屋彌曾代
石川 福太郎

恭賀新年
一月元旦
海陸商會
菊井治三郎

田中 義一
鈴木 震一
岡本 武雄
末永 一登

和洋食料品
鮮魚等一切

謹賀新年
一月元旦
魚喜商店
店主 酒井喜多市

谷 一 民
小島 岩 松
湯川 賢太郎
松田 孝
村上新太郎

和洋食料品
鮮魚等一切

和洋食料品
鮮魚等一切

桑港ホスト街一六四〇
電話ウエスタ街七三三三
藤本商會桑港支店
支店長 安永實造

世良田 昌一
種村 權重
大西 宗吉
大野 宇一
寺西 鐵藏
藤井 靜夫

桑港ジャクソン街二三三八
電話ダグラス街二二二六
藤本商會本店
店主 藤本源平

藤本 觀太
山根 貞藏
角田 平三郎
戸田 靖榮
麻岡 豪正
大村 耕男
坂田 耕作
森岡 寛

田代 辨次郎
三國 護一
藤森 慶助
石川 肇

込山 太之助
緒方 守男
山崎 次男
坂田 梅子

藤本商會羅府支店
支店長 板野初三郎

築瀨 東作
元成 清夫



今年の運動界

柔座にて 詩 夫

矢張り運動界は出雲の年である。同時に、黄金時代の第一歩を踏み出す年である。...

今年は何等の運命に遭遇する。...

河水流 永井い子
冬夜 同
友の東遊記 同

懸賞論文
第一頁の額
第二頁の額
第三頁の額

大分運動にそれだが、さて今年に於いては、運動界は如何に進展するであろうか。...

私達の考へでは、今年も運動界は、さうして最も重要な年である。...

懸賞論文
第一頁の額
第二頁の額
第三頁の額

謹賀新年 小川ホテル 同
カリホルニヤ街六一二

謹賀新年 帝國ホテル 同
パイン街五五一

高等御食事所 常盤園
杉山米吉
ポスト街一七六七

謹賀新年 ドラゴン商會
商會主 玉村新之助
外 一 同

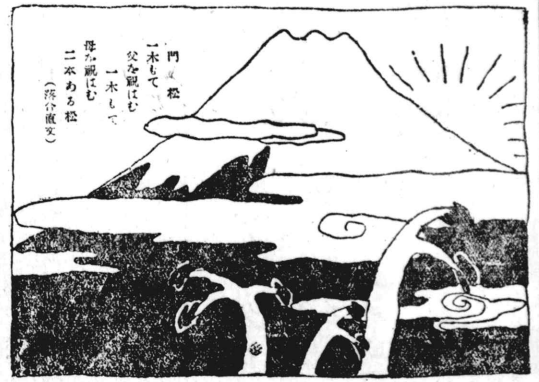
謹賀新年 榎本商會
切花卸商
桑港第五街一五九
電話ガーフ井ルド四五四二

謹賀新年 美術雜貨輸出商
パシフ井ツク
ドライグーズ商會
桑港グラント街四三四
店員一同

謹賀新年 芙蓉商會
美術雜貨輸出商
會主 神崎吉三
店員一同
神戸市三ノ宮町一丁目一六〇
藤原兄弟商會

謹賀新年 港すし
高等御食事
野上三代造
大正十五年元旦

謹賀新年 井原商會
桑港サター街一七三七
井原金次
電話フィルモア七〇九〇
同 支店
桑港クリフハウス
電話ベビーユ一四六一
支配人 井原定吉郎



春を迎ふる (春舟郎)

大正十五年の春を私は...

過去つたものに悔いがない...

悔い、恥、恨み、嘆き、悲し...

花に歌ふ鳥は時を知らず...

お出たう！お出たう！...

雪景五題 尾上柴舟...

お出たう！お出たう！...

小さい社会の中に...

お出たう！お出たう！...

外間的に建てて来る...

お出たう！お出たう！...

お出たう！お出たう！...

謹賀新年

資本 壹億圓
積立金 八千三百五十萬圓
資産總額 十二億九千四百萬圓
預金總額 五億六千八百萬圓

横濱正金銀行桑港支店及羅府分店

桑港支店 (明治十九年六月創立)
羅府分店 (大正十二年二月創立)
桑港サンソム街四一五—四二九
羅府メイン街百番地 (電話)ブロードウエー六一四四、六一四五

謹

Hakushin Sha

Stock & Bond

認公

株式公債 博信社 賣買業

營業十五ヶ年間

在米同胞中本業の元祖

本所 米國 桑港
出張所 日本 東京
出張所 米國 羅府

Table with columns for Branch (支店), Representative (支店長), and Name (氏名). Includes entries for 大澤榮三, 笠井健治, 池田幸雄, 大澤勇吉, 池田早苗, 羅府出張所, 福田卯吉.

416-419 Pacific Building
4th & Market Sts.
San Francisco, Calif.

新

賀

幸

謹賀

ブキヤナン街一六三二

電話 フ井ルモア二〇二〇

新年

パナマ自動車會社

西村音之助
外社員一同

謹賀

桑港ゲリー街一五三壹

万 麴味噌製造所

則尾政一
店員一同

新年

謹賀

直輸入卸小賣商

桑港ゲリー街一五〇三

デユポント商會

鷺塚 衆吉
外店員一同

新年

賀

SK家具合資會社

店員一同

ゲリー街一六〇五

正

賀

アングロカリホルニヤ

トラスト銀行

フ井ルモア街支店

日本人部主任 加來藤太

正

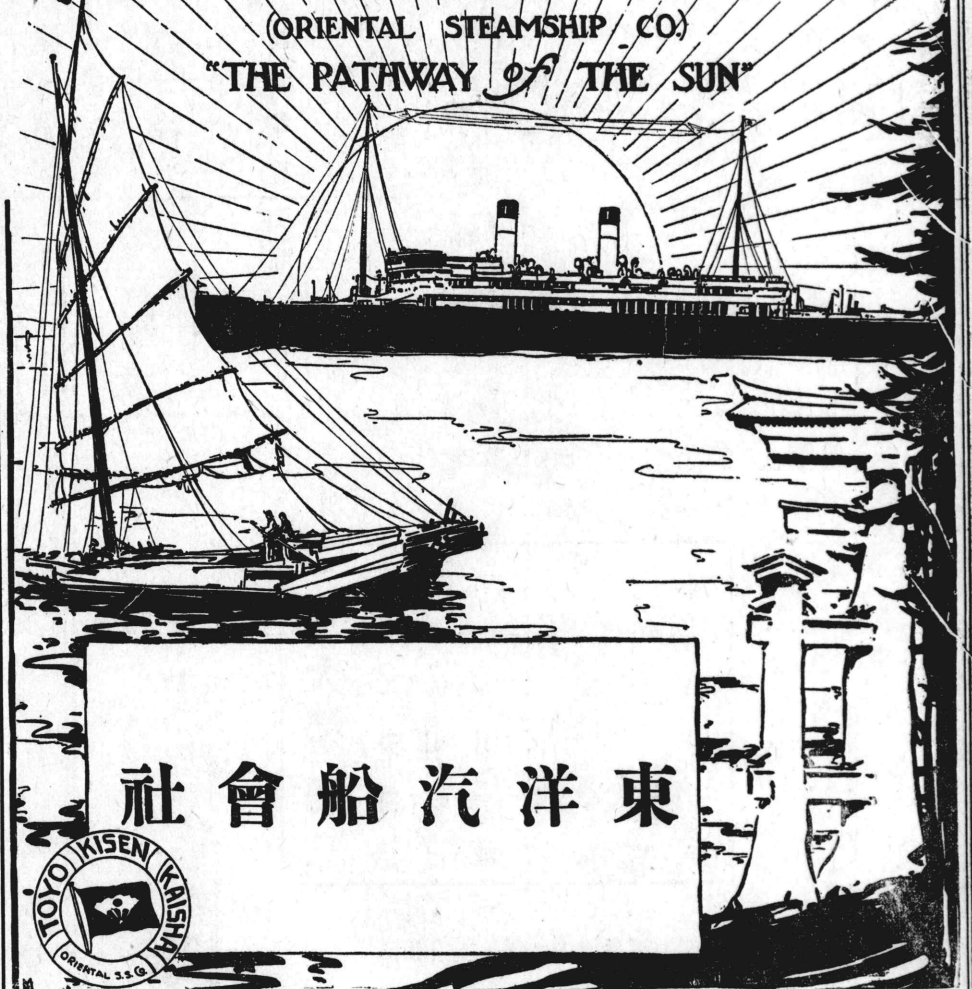
恭賀新年

日元月一年六二九一

TOYO KISEN KAISHA

(ORIENTAL STEAMSHIP CO.)

"THE PATHWAY OF THE SUN"



東洋汽船會社



恭賀新年

桑港興行會社

一月元旦

社員一同

桑港ゲリー街一五〇五

僕の部屋



小島鳥水

私の今住んで居る部屋は、もはや何處かの別荘であつた。...



在米同胞の問題

桑田日吉 齋藤重光

昨年頃から新聞の報載に一つ、...

正賀

王府、麥嶺、亞市 名刺交換

Table listing names and addresses for the 'Shinhwa' (賀正) exchange.

Advertisement for various businesses including '信濃商會', '太平洋切花商會', '富士山洗濯所', '山田醫院', and '橋本病院'.

賀正 サンノゼ市

日米支社 主任 峯田 國作

新世界支社 主任 岡垣 吉太郎

サンノゼ日本人會

佐市佛敎會 開教師 土原 行圓 開教師 池邊 岩雄

佐市商會 全料品雜貨並に金物類 電話サンノゼ一〇一五

謹賀新年



鶴田合資會社

醬油、味噌、糍製造元

社員 一同

412 JOSEFA STREET, SAN JOSE, CALIF.

沖田本店

沖田支店

和洋食料品並に雜貨

土橋商店

ウエンバスケツト

製造會社

清水龜次郎

サンノゼ日本語學園 校長 渡邊 岩雄

太平館

武田熊太郎

加奈陀サン生命保險會社 701 Alaska Commercial Building, S. F.

松井 壽治 649 N. 4th Street, San Jose, Calif.

北第六街 常盤魚店 府内 軍藏

本年も不相變

御引立を願ひます

アサヒ魚店 早野又五郎

和洋食料品雜貨

徳和號商店 佐市クランド街三三 電話サンノゼ三九五五

高等支那料理

廣東樓 北六街六四五 電話五一九一

日本病院 醫學士 天野 實

川上化粧品店 川上 虎彦

石川商店 吳服反物並化粧品

ナシヨナル印刷所 北第五街五一〇 高市 謙之助

岩崎洋服店 岩崎 清藏

佐市裁縫女學校 教師 萩原 富子

中原齒科醫院 堀 産院

雨宮産院 主任 雨宮 千代 助手 降矢 雪江

東洋ソーダ水製造所 綱島 作次郎

安永運送店

ジャクソンケラージ 田橋 五郎

喜樂亭

南海屋旅館 木村 富太郎

可兒商店 野菜卸商

伊藤玉場

城花園 城 周造

西浦新三郎 建築 西浦源太郎

北澤花園 北澤 武右衛門

峯田代理事務所 ウエストコースト生命及び自動車保險 ニューヨーク州火災及自動車保險

石野寫真館

有田商店 有田 庄平 秋月 豊

田邊商店 田邊 敬二

九州屋旅館 堀 石 太平

徳永商店

山本旅館 建築請負

山本旅館

喜多商店

ミカド商會 岡本 新吉

司馬時計店 支那料理

春山長藏 貸自動車

救世軍市小隊 中津 大尉

山田輔也

北澤儀重

安東彌吉

大竹一貫

山田 實

河上幸八

山本實夫

西陰精一

高橋宗三郎

畠山喜久治

秋月益夫

久坂藤吉

谷澤武雄

杉下泰助

笹尾常吉

玉田平七

井上善三郎

後藤辰次

熊井嘉一郎

加藤定楠

小柳國平

エデンビル

梅園一同

松原萬造

古屋棟吉

藤川 保

越山辰平

川浪寅吉

川浪正道

丸林兎一郎

松井長生

村上宗太郎

中村時次郎

鶴本寅吉

光永 孝 檜山 嘉一 藤川 榮太郎 杉置 靜高 寺西 藤一 山本 虎吉 長富 米藏 松尾 安太郎 伊藤 藤吉 稻田 光次 桑田 義千代 古賀 末吉 橋本 重雄 日永 登 坂本 藤藏 關谷 善三郎 坂田 好清 森田 好清 早川 次良 丸山 德之 丸山 國平 坂口 虎藏 上村 一喜 荻坂 伊太郎 村瀬 幾太郎 桑田 義千代 矢野 龜雄 末永 榮 毛利 正一 久司 繁太郎 ミルピタス 生田 富太郎



日米 新報(第四)

在米同胞に望むしき事

共存共榮主義が必要

終局の勝利は正義に歸する

終局の勝利は正義に歸する
共存共榮主義が必要
終局の勝利は正義に歸する

米國で初めて

新年を迎へて

米國で初めて
新年を迎へて
回顧と希望の数々

在米諸名士の意見

私の希望

私の希望
在米諸名士の意見
婦人から男子へ

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人

同夫人

同夫人
同夫人
同夫人

同夫人
同夫人
同夫人



同夫人
同夫人
同夫人

正賀
ワツソンビル
名刺交換

華村日本人會	元木一治	河村政平	村上熊次郎	壽村武一	パハパロー	シヨウウ	PAJARO THEATRE	美根又三郎	高山豊一	東次郎	田尾兄弟	二居倉松	華村佛教會	猿橋雷笑	松本次良一	山際チキ	池田重夫	行徳仙吉	高田醫院	高田吉郎	美根伊勢吉	川合伊五郎	吉田角右衛門	前田仁作	榎本辰太郎	
小田徳三	海野富之助	鳥越文吉	福場遠助	大野義太郎	志熊宇之助	神谷繁吉	井上龜一郎	井上二十一	福本與之助	横山延藏	管井政治郎	田中辰次郎	小林織太郎	土屋峰治	志熊幸太郎	川口菊藏	小錢松治	坂田久三郎	田中兼助	水戸野琢藏	牧井辰吉	松岡産院	橋本種市	永瀬長介		
高橋重孝	橋本幾太	阿野權四郎	山本善太郎	高田善十郎	ヂーパーティー	伊達甚三郎	橋本勇穂	山本直藏	大野源太郎	北山松之助	楠本卯之助	清時利次	小林惣一	山口正喜	前田龜之進	三田精一	木塚徳繁	林淺吉	杉殿佐一郎	武田療院	高次農夫一	岩見安太郎	浅田市造	村川竹一	櫻井俊人	岡村坂次郎

森本楠松	吉田盛三郎	山内作次郎	三谷淺吉	有田百	蕭暢茂店	マクアラソ商会	遊戯道具一切	フリーマス金物店	ニュース・コムパニー	THE PAJARO VALLEY NATIONAL BANK	パハロー バレー	ナショナル銀行	矢の平留三郎	山本才吉	芋原庄助	滿井寶作	滿井直記	松井仁平	境英藏	村上鹿藏	村上鹿藏	横山林三郎	中元良隆	美能伊滿太郎	仲田豊一	大江徳太郎	山本常治	小林守郎	戸田宇藏
森宗惣市	渡邊由松	八木初三郎	竹本伊太郎	奥野篤之助	インデペンデント	マクアラソ商会	遊戯道具一切	フリーマス金物店	ニュース・コムパニー	THE PAJARO VALLEY NATIONAL BANK	パハロー バレー	ナショナル銀行	矢の平留三郎	山本才吉	芋原庄助	滿井寶作	滿井直記	松井仁平	境英藏	村上鹿藏	横山林三郎	中元良隆	美能伊滿太郎	仲田豊一	大江徳太郎	山本常治	小林守郎	戸田宇藏	

抽洞虎三郎	淺海佐六	福本猪七郎	眞鍋生造	小玉音松	市岡庄太郎	岡田象吉	松永大作	和田庄藏	竹本梅松	酒瀨川清吉	松田虎藏	平原四文字	藤本實	華村支社	山本福次郎	小林幸次郎	若山圖書館	岡本精一	住田甚太郎	大可徳松	小畑瀧藏	地中完甫	數田篤吉	櫻井次郎	兒玉新太郎	田島隆之	大西量平	中佐古澤一
-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	-------	------	-------	-----	------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------

迎歡君諸人本日

W. W. Bendell

AUTHORIZED FORD & FORDSON DEALER

ルーデンベ
車動自ドーオ
人理代

段値し渡ルピンソツワ

四戸セダン	七七〇・四〇
二戸セダン	六八〇・二〇
クワーター	六二四・八〇
ツーリング	四七四・〇〇
ロードスター	四四二・八〇
ロードスター	四六八・三九
ロードスター	五一〇・〇〇
ロードスター	五九〇・〇〇

高車に付いては店員が詳しく説明します

恭賀新年

チャールレス・フォード商會はこの機会を利用して過去日本人の皆様が取引して下された御厚意に對し感謝の意を表しますと同時に今後とも相變らざる御引き立てを御願ひいたします

當商會は常に皆様の御便宜を圖るべく苦心して居ります。若し皆様に對し御不満の点がありましたら御注意を願ひます早速改善に努力いたします。終りに皆様は幸福なる新年を御迎へ下さる様祈ります

CHARLES FORD CO.

WATSONVILLE, CALIF.

バックキヤンデー店

Buckhart Candy Store

ベーカー靴店

E. J. Baker, 423 Main St.

アレキサンダー商會

ALEXANDERS

Succeeded by Samuel Leask

恭賀新年

同志俱樂部一同

謹賀新年

日本人諸君の御健康と御幸福を祈り本年も相變らざる御愛顧を御願ひ致します

メーソン街公園前

ワイリアムス・アンド・ビーブラツク商會

Williams & Biebrach

Main St., Opposite THE PARK

すま上申祝御に共と春新を福幸御の姉諸者讀でん謹

1513 Ellis St., S. F.

所行發菜之裁洋

且元月一年五十正大



蟹 第一等當選

若月糸江

蟹 第一等當選... 若月糸江... 蟹は、海に生る。...



第二等當選 或る日のキャンパ

峯澤 邁

或る日のキャンパ... 峯澤 邁... 彼が、或る日のキャンパ...

母と娘... 松下翠香... 母は、娘を呼ぶ。...

母と娘

松下翠香

母と娘... 松下翠香... 母は、娘を呼ぶ。...

新年短歌... 井上渭城選... 第一等 桑港 磯節也... 第二等 片面明るし山面斜は... 第三等 農具みなたづつれられた元旦の...

新年短歌... 井上渭城選... 第一等 桑港 磯節也... 第二等 片面明るし山面斜は... 第三等 農具みなたづつれられた元旦の...

賀正

サクラメント 名刺交換

Table listing various businesses and individuals, including names like 佐藤力太郎, 宮川常三郎, 池田喜平, etc., organized in a grid format.

Table listing more businesses and individuals, including names like 須藤美穂, 森本 弼, 中央靴店, etc., organized in a grid format.

謹賀新年 加州米商會

謹賀新年 旭商會

謹賀新年 櫻府飲食店組合

謹賀新年 櫻府旅館組合

謹賀新年 櫻面都食料品商組合

櫻府飲食店組合



Advertisement for 櫻府旅館組合 (Sakura Ryokan Kumiai) listing various inns and services.

Advertisement for 櫻面都食料品商組合 (Sakura Mido Shokuryo Kumiai) listing food products and services.

Advertisement for 二葉裁縫女學校 (Futaba Saisei Onnagaku) listing school details and contact information.

Large vertical advertisement for 櫻府飲食店組合 (Sakura Ryokan Kumiai) with decorative text and a list of members.

新 川 柳

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也



新 へ な ぶ り 編 輯 局 選

う。なひし去年を忘れよ此の春は... (一) 等 牛 儀... (二) 等 山 人... (三) 等 山 人

一 口 噺

サ ン マ ヲ 清 水... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 山 人... 三 等 山 人

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也

初夢や父母の血を誇る人... 王 府 佐 用 儀... 一 等 編 輯 局 選... 二 等 王 府 方 南 坊... 三 等 サ ン マ ヲ 也

虎に關する... 虎の忠死虎狩等... 愛兒の仇討... 忠死した虎

虎に關する... 虎の忠死虎狩等... 愛兒の仇討... 忠死した虎

虎に關する... 虎の忠死虎狩等... 愛兒の仇討... 忠死した虎

虎に關する... 虎の忠死虎狩等... 愛兒の仇討... 忠死した虎

Table of advertisements and business listings including 東洋商會, 日本支社, 谷川商店, 日本花園, etc.

恭賀新年

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

富田勘三郎
田中洋食店
吉田眞作
みかど洗濯所
山根岩吉
松田源次郎
向井巧
山本吉太郎
小島エキスプレス
小松三之助
白井順吉
鳥井頼業
加藤安太郎
福島雷次郎
安孫子博
河府隆治
村上七郎
村上一
西村完一
藤村佐平太
原田權四郎
濱中洋食店
逸見商店
石田球場
山見坂勇三郎
長谷川角藏
河本兼吉
福田珈琲店
佐伯六郎
活動寫真館
皆本慶次郎

安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

坂本節吾
平智山
濱住球場
フレスノ肉店
中元珈琲店
田村政一
大上ホテル
毛保健作
竹本政市
榊田復一郎
南海屋旅館
藪野勘四郎
富士洗濯所
坪田壽郎
河合伊三太
みかどホテル
山崎寅次郎
百瀬眞澄
玉屋時計店
産黄金魚店
大野信吉
高橋以敬
岩田一郎
戀しき
シヨウコ寫真館
西田市太郎
陣川喜市
山崎義郎

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

掛部祐一
小澤周
白山紀一
村谷儀三郎
上丸子三一
ホーム薬店
片山壽太
フレスノ魚店
三井仙八
光原玉場
大原勇之助
山本孝夫
香本貫一
池田杉松
新井珈琲店
荒木直次
伊藤吳服店
松本漢語
寺前清四郎
河原義三
柏屋菓子舗
谷川清
中谷芳造
結城珈琲店
中井勝次郎

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

高田洋食店
神山寫真館
安平産院
和隣子
和喜雄
吉田壽
關舎武一

増田徳次郎
矢倉忠夫
石瓶武一
谷田部保

丸
主人 江後

港
すし

六華亭
布市支那アレー街

賀正
神川商店

布市佛教青年會
一月元旦

市場丑象
大野又一
山田重太郎

リバグラージ
布市ジール街八壹壹

恭賀新年
ドウサトスエウ
ジーラダ
〇〇五一街シーカ
〇五一二話電

謹賀新年
布市佛教會
同學園
中藤奈沼菊京
新井良田池極
井龍靜智鐵逸
康智馬圓象藏

謹賀新年
大和亭
山田才吉
廣川浦助

千鳥亭
布市支那アレー街九二二
河沼

花月亭
布市ツラレー街一四壹五
中岡助市

旭亭
布市支那アレー街九二九
室田兼次郎

三筒井
竹友枝
吉川友
北本
須山
溝手
宮城
戸口

三島玉場
木村久太郎
森本馨

三島玉場
遊佐敬三
栗屋義雄

三島玉場
高田寅三郎
宮本慎次
神塚完一
石井耕四郎

三島玉場
高田寅三郎
宮本慎次
神塚完一
石井耕四郎

三島玉場
高田寅三郎
宮本慎次
神塚完一
石井耕四郎

新年雜詠

俳句 森素人選
春初日記に代へて句三三
年會料理屋に於て去年の借

寅年に因んだ

談澤庵虎拜領

桃川如燕講述



本年は寅年でございまして其支那に於ては、有り難くも虎が...

子髪の段々摘みや宿の春
甘蔗切る今日元日思ふ
風年や木鐸節のよづ割れ

謹賀新年

Table with columns for names and locations: 中加地方, 下田作太郎, ニューバイ, 謹賀新年.

スタクトン
名刺交換

藤森壽一
井口しん子
藤森清芽
土井 巖

工藤齒科醫院

長谷川辰太郎
店員一同

東海林民治

東洋商會
高橋商會
高橋清一郎

藤本龍曉

宮田竹市
同 忠雄

門池義民

同 忠雄
市川耕三

渡邊齒科醫院

大井寫真館
矢田一雄

賀 山商店

田淵政太郎
店員一同

賀 日本ドラッグ

松本徳太郎
店員一同

宮坂 磐

恒川繁太郎
主田健三

塚原正美

三輪肅晴
村木半造

内田賢助

鍋島和助

石川榮助

中 島
ホテリ

西岡産院

麻生徳三郎

大塚産院

福山仙吉

久世産院

清水義雄
須市裁縫學校

清水裁縫學校

山下裁縫學校

富士印刷所

三力谷小市
鶴本子之八

太田雅樹

田中 實

北河喜一郎

伊集院哲夫

白井豊吉

藤田友一

井上吉恵

佐々木繁義

綿帯堂藥舖

今岡究師

柴田三徹

奥名圓藏

須藤文明堂

深野木石衛門

節田篤太郎

荒川柳太郎

大阪屋菓子店

河内新造

鶴屋菓子店

大島勘一

恭賀新年

新藤商店並に商船部
新藤 徳松
全 新 徳松
田 淵 源 六
掛 部 淳 一
海 田 高 次
佐 藤 時 春
中 村 重 太 郎
鈴 川 中 實
田 中 實
バーネー・チャルデス

リンコルン

サツマヤホテル
本池次市

福岡屋旅館

上田一男

肥後屋旅館

梶原彌三郎

廣島屋旅館

永井勝一

紀州館

中西佐一郎

岡田清一郎

錦帯旅館
日本旅館
日米ホテル
坂梨健三
島田五郎

桑畑義住

岡本喜代太郎

木村商店

遠藤源吉

寺下五郎

岩田タイヤ

曹達水造製所

上利與一

國森熊吉

井上勇太郎

小川好雄

青木關三郎

秀島秀治

井上俊男

鎌田養八

草間新四郎

緒方才一

田島 清

安井柳吉

中村傳吉

林 由太郎

高田喜四郎

豊 明 館

萩尾鹿五郎

蒲地政次郎

松本幸一

大成旅館

安部永三郎

横井守三

市木守知

大内大工

柴田勇太郎

鐘江鐵次

鐘江善助

木場武雄

川又清吾

尾形忠三郎

津田善太郎

吉田重太郎

平野周平

關森 薫

關森澤次郎

眞野鎌吉

須市興業會社

朝 日 座

天 眞 堂

鈴木良太郎

堺 商店

岡本自轉車店

横山洋服店

中西洋服店

伊藤商店

センター魚店

服部孝俊

熊本屋旅館

山内健之助

森脇秋藏

島川兼次郎

南海屋
愛知旅館

緒方末彦

永田正徳

小牟禮定

都森悟一

鈴木福太郎

デルタ洋食店

花村 融

大原 緝

寺井保吉

久家 諫

森田市太郎

久保田喜一

ニッ 洋食店

後藤善松

原 愛助

黒江辨吉

久藤正一

國井時計店

櫻 湯

高 砂 湯

竹本魚店

富 貴 亭

月 見 亭

か じ ゅ く

三 福 亭

八千九亭

柏 屋

竹 亭

室谷忠平

松本榮藏
守田庄次郎

石丸正吉

相原仁三郎

古川義一

白石良介

安田新五郎

大島鎮磨

丸本重太郎

西浦藤吉

關根收耕

富江豊次郎

芳野彦十郎

芳野喜太郎

町並乙次郎

野田徳次郎

新澤次太郎

細末若次郎

津田信次

清野市之助

阿久根商店

秋山英藏

モデスト地方

山手繁一

吉村半四郎

吉畑九之助

古山政一

セリス地方

清井篤之助

住田吾平

武田三彦

山本安一

米山清太良

宮嶋清太郎

諸藤子之吉

山本千代吉

村上登一郎

古屋爲八

品川角次

栗林梅吉

辻村良平

稻葉源吉

水間作之丞

中川彌平

田近外二郎

富樫旅館

野田理髮所

村野商店

中野商店

川崎ルーミング

エチ・エー

洗濯所

東洋洗濯所

小山正次

新たなものに就いて

及び現代の流行語新時代

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...



海の春

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

「新時代」新語の流行、現代の流行語、新時代...

Table with columns for various clubs and members, including 丸山商會, 同志俱樂部, 吉田商店, 山下商店, etc.

賀正 沿岸地方

パロアルト

景山才一郎	川守田英一	小谷源之助	兒玉節二	入江眞澄	一氏菊次郎	稲葉兼太郎	伊藤貫一	樋口彦七	江田市郎	二間瀬宇助	出口司馬太	馬場岡政雄	明渡柳助	辻原喜三郎	山崎富太郎	田川元助	中澤勝藏	高橋愛三	吉田徳助	宇治田彦太郎	大門丈三郎	平野登市	秋重俊次	相原尙春	佐藤喜八
高本市太郎	土屋敏太	瀧口龜太郎	上海樓	土山末吉	瀧川藤一郎	田端虎吉	陶山仙次郎	角貞次郎	菅野定之助	崎野良介	塩崎清吉	小澤勇吉	折茂吉太郎	奥村彌五市	尾田惇一	尾田善次郎	尾田常太郎	中井仲右衛門	宮本熊彦	眞中安松	眞中留吉	増田多一郎	三浦辰次郎	小宮柳太郎	上河内徳一

謹賀新年 The Arcade Department Store Blum & Schwartz, Props. ハイドリック写真師 Heidrick & Heidrick 233 Alvarado St. Monterey, Calif. 山手貿易商會 山手萬太郎 山手武雄 沿岸アプロニー會社 江崎藤之助 瀧川幾太郎												高田梅樹 渡邊太重郎 内田斧次郎 矢半田貞三 内田角太郎 山本治二郎 植中武人 安田甚内											
ホルマン百貨店 HOLMAN'S DEPARTMENT STORE Pacific Grove. ゴールドステイン呉服店 GOLDSTAIN'S Alvarado St., Monterey. パレスドラッグ雜貨店 PALACE DRUG CO. Monterey.												太平洋共同魚市場 瀧川幾太郎 東卯之助 尾田善一郎											

藤本床 藤本常吉 島田權藏 島田清 松尾儀三 奥村政楠 江崎佐太郎 中村兄弟 市本利一 松田源一郎 篠崎新 西本ステージ 浪 中村商店 エー・ビー・シー商會												新年ためたう ございます 小川金治 私は此紙以外にあなたに賀状は差上げません 遠近の友人方にして個人的賀状を被下る方があれ ば署名を記して貴君の御健在を心の喜悅と致し ます											
支那料理 金門號 岩橋慶次郎 岩橋慶治 吉原久市 吉原卯一 中村竹楠 出口十次郎 外一同 増田木平 外一同 大久保三郎 大久保勇 大久保進 大久保進 大久保進 大久保進												日本料理 浪 花亭 中村商店 エー・ビー・シー商會											

保田 西岡平助 野口榮次郎 戸神椿市 南出常楠 小村小太郎 東山吉次郎 齊藤長藏 間佐古虎松 巽一夫 山中茂 守谷峻 畑中國三郎 角谷菊松 古屋泰治 見田宗二 井内留三郎 林徳太郎 西本太一郎 中谷兼助 佐野増造 中村一 吉村松太郎 辻利一郎 久岡寅之助 金谷西造 辻田龜太郎 小畑鐵五郎												ウインターズ 西川丈八 高橋岩楠 川本若一郎 川本森楠 辻善七 市川龜二郎 相良嘉吉 安井兄弟 下村キャンブ 一 矢形益一 近藤政助 山本由助 山本由助 エスパート 岩永直人 松本寅吉 三浦穂作 相良八三郎 相良友治郎 相良秀三											
和歌松旅館 上野卯吉												室谷政太郎 室谷政太郎 宮崎市次郎 木村茂 松谷常吉 増田喜平治 松谷留楠 古田宗右衛門 畑中寅造 松下春吉 西本徳次郎 新崎平三郎 門司松太郎 辻本房之丞 中川健三 堤常太郎 佐藤藤市 戸田重光 梅本勝三 川本芳太郎 道閑安平											

和歌松旅館 上野卯吉												室谷政太郎 室谷政太郎 宮崎市次郎 木村茂 松谷常吉 増田喜平治 松谷留楠 古田宗右衛門 畑中寅造 松下春吉 西本徳次郎 新崎平三郎 門司松太郎 辻本房之丞 中川健三 堤常太郎 佐藤藤市 戸田重光 梅本勝三 川本芳太郎 道閑安平											
和歌松旅館 上野卯吉												室谷政太郎 室谷政太郎 宮崎市次郎 木村茂 松谷常吉 増田喜平治 松谷留楠 古田宗右衛門 畑中寅造 松下春吉 西本徳次郎 新崎平三郎 門司松太郎 辻本房之丞 中川健三 堤常太郎 佐藤藤市 戸田重光 梅本勝三 川本芳太郎 道閑安平											

肺結核靈藥 中村藤太 羅克斯ブリッジ ワロウミング州 郵九九二五												黒田芳雄 内本善之助 貴志喜一郎 追野銀次 吉美彌十郎 市川莊吉 鈴木永治											
肺結核靈藥 中村藤太 羅克斯ブリッジ ワロウミング州 郵九九二五												黒田芳雄 内本善之助 貴志喜一郎 追野銀次 吉美彌十郎 市川莊吉 鈴木永治											

恭賀新年
州ンゴレオ
換交刺名市ドンラト一ホ

在ポートランド市
領事館
水澤孝策
岡本久吉
吉岡武亮
上原廣司

中央日本人會
（リン）館内

竹岡大一
富廣專一
伊藤鐵輔

阿南惟徳

小山田正廣

棚町豊喜

田中政義

深井慶市

清水松次

有森吉清

頭井ツチ
坪井時計店

ゴシキヤフテリヤ
立石

サンライズ床
藤中 第一

富岡運送店
北第五街九二

スターミイト
舞臺 英治
マケツト

佐藤計太
リルマアホテル
第四街一七〇年

竹内要次郎
北第四街六〇

岩田龍一

妹尾哲三

野上儀三郎

初神昌二
ポーターホテル
第三街五二二年

植田健止
ポ市日米支社
ラブレ一街三六

ミカド湯
ミカドホテル
井上清男
ポ市エプレット街二六二年

中央日報社
北米支社
大北支社

謹賀新年
ポートランド市北第三街三四
伴商店
店主 伴新三郎
店員 一同

正 賀
ポ市北第三街五四
帝國商會
店主 松島茂三郎
店員 一同

正 賀
ポ市北第四街五一
古屋商店
店員 一同

正 賀
ポ市北第三街六五
日米商會
染川 愿 策
吾妻 勇

賀正 東久三郎
第一街二二六

賀正 頼實 靜一
パンサイド街二七七

賀正 犬塚 隆
日本花屋

賀正 長谷川商店
ポ市北第三街七五
長谷川 利 衛
秋村 健 雄

賀正 小原商店
ポ市ワシントン街四二

恭賀新年
ノーザン
ドライグーズ商會
ポ市北第三街五一
ノーザン食料店
ポ市北第三街六〇
併書の御愛顧を願上候

恭賀新年
株式
鈴木商店
仲良之助
戸田正太郎
宮崎一郎
島崎龍一郎
梶山 増吉
小林 毅

賀正 高林歌次郎
ポ市北第六街七一

賀正 早稻田立二
ポ市北第二街四一

賀正 清水音吉
ポ市北第五街二一〇

賀正 山田玉一
ニューマーケットホテル
原 儀三郎

賀正 布谷信一
リレドホテル主

賀正 鍛川奈々代
ホスターホテル主
ポ市北第三街六六

賀正 劍持數衛
中央旅館主
ポ市第五街九二

賀正 角田友七
オハヨーホテル主
ポ市フロント街二六六

賀正 倉西房吉
シンクレストホテル主
ポ市第二街二四八

あけまして御目出度う
淀川亭
主人 木曾 一

新年は御目出度う
ミカド飯屋
石橋直一
ポ市エプレット街二六四

謹賀新年 筑
古川 紫
ポ市エプレット街二六八

謹賀新年 日の出
宮崎 漢市
ポ市北第五街九四

謹賀新年 丸
宮崎 漢市
ポ市北第四街五〇

謹賀新年 大正亭
森 忠 康
ポ市フランダー街二九二

謹賀新年 松壽庵
田島 タケ
ポ市アベニ街二六七

謹賀新年 仲の家
中田 篤 昌
ポ市第四街北七六

謹賀新年 早野勘平
笠岡 金太
米崎 喜市
横手 房吉

恭賀新年
一月元旦

府羅 日本人農産商組合
羅府東拾街七百二十三番地

アメリカン農産商會
ベ一セテ一農産商會
ダイヤモンド農産商會
ゴールデンウエスト農産商會

エツチエフ農産商會
インペリアル農産商會
アイ・アイ農産商會
ハイランド農産商會

三浦農産商會冷蔵庫
日本農産商會
奥平農産商會
力丸兄弟農産商會

スター農産商會
竹内農産商會
ユナイテッド農産商會
デストリビューター

サン農産商會

農産商會

賀正

日米通信員
下司竹次郎

スリフトグラージ
長野久吉
小林與太郎
高田伊助

山本兄弟農園
山本又機
山本平機
山本種一

谷口鮮魚店
谷口勘七
電話八一三

立花 酒井善十郎

鬼塚商店 鬼塚留藏

大字根毒園
大字根一勝
藤田龜二
藤田一平
品川治平
中道次郎作
電話七四七二一

コースト毒園 岡本直一
電話六二九

コースト毒園 杉本彦十郎
電話七八八

ギヤパンクリック・フォーム
安田喜八
電話七フ二二

湯木旅館
湯木勝一
電話五三〇

ラグニタ毒園 吉岡貞一
電話七フ二三

ラダニタ毒園 佐藤龜吉
電話七フ七

渡邊連平 竹下政幹

古賀謙藏

田住隆助

岩木董吉

卜部宇助

野口源三

菅原秋實

岩重治吉

大庭留吉

遠藤喜太郎

福森暎熊

秋元政久

小林末次郎

岡田勝次郎

日夏松次郎

谷居菅夫

藤野美角

風岡勝太郎

ギルロイ

松下丑楠

藤本信太郎

平崎清

謹賀新年

小畑商店

山崎静二

下司卯吉

犬童三郎

田中孝平

小形彦藏

安平信行

沖中音藏

柿九次郎

實藤協

北與三吉

尾鼻林之助

木村善太郎

中敷繁太郎

西本濱一

田中旅館

福田榮次郎

柿丸英雄

田中サメ

田中嘉太郎

西本彦一

紺野進

上岡秋太郎

西村賢市

田村芳太郎

加藤みよ

津山彌三郎

西本悦太郎

米村徳松

久保山寅藏

間野秀千代

東隣元

松浦十吉

高田桂助

橋本喜之助

橋本貝之助

東彦太郎

寺本由松

石山商店

廣島屋旅館

便利店

旭商店

青木農産商會

奥本旅館

藤貞美髮館

新年 謹賀

謹賀新年
御年中は御愛顧に預り奉謝
御本年も不相違ひ引立の程願
上候
オレンヂ部
グロリエタ
一月一日

堀尾治海

井上龍吉

井上石藏

謹賀新年

荒古龜楠

矢崎作平

伊東半一郎

浦田毛佐郎

前田國支

竹野與一郎

平野文太郎

伊藤清一郎

篠田藤次郎

塚田清

桑田清

平野文太郎

賀正

羅府及附近

平井由太郎

伊東半一郎

矢崎作平

荒古龜楠

竹野與一郎

平野文太郎

伊藤清一郎

篠田藤次郎

塚田清

桑田清

平野文太郎

伊藤清一郎

篠田藤次郎

塚田清

桑田清

御挨拶
當社は加州日本人農家諸君に對しクリスマス及び新
年の祝詞申上げ
このクリスマスに際しては十軒の日本人農家が西
部ユタ州に移住され、尙又、約八千英加の土地を南加
州に在る日本人農家百名に賣却せられた事は皆様に
御知らせ申すことは弊社の最も喜ぶ事と致す
前記日本人農家の方々は弊社のペーカスビル・デストラ
トの土地を購得して、灌漑に便なる多量の地下水を
有する故成功の機會確實なりとの信念の下に起されて
居ることを信じて
特にクリスマスは凡ての人に對して好意を有つべき
季節ですから、ユタ州全體に於ても、又個人として
も日本人諸君に對して好意を表はす機を失しては
りませぬ
ユタ州には日本人の家庭、土地所有を禁する如き外人
排斥の法律はありませぬ
當社は是に鑑みて日本人諸君に對し幸福成功の新年を
迎へられん事を祈ります

ペーカスビル土地會社

A. E. MCGARRY

611 GRANT BUILDING

LOS ANGELES, CALIF.

日本人代理人 國井 潔

121 S. SAN PEDRO ST.

LOS ANGELES, CALIF.

電話MA (メーン) 一七四七

羅府北サンビドロ街一七

オリンピックホテル

經營主任 長崎 豊吉

謹賀新年

北米航路

南米航路

大阪商船會社

一月元旦

大阪商船會社

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所

シヤトル出張所

タコマ支店

シヤトル出張所

羅府出張所